

読み方アドバイス

?
質問

毎日同じ、一冊の絵本を何回も読んでと言う娘。上の子たちは次々絵本を持ってきていたのですが。(3才女の子のママ)

お答え
します

繰り返し読むのは大事なことで、上のお子さんとは比べないで

繰り返し読みたがる一冊があるのは、とてもいいことです。**結末を知っている物語は子どもにとって安心感があり、じっくり楽しめるもの。**背景まで読み込んだり、最初は素通りしていた部分で何か気づいたりもします。親は、「たくさんの絵本で色んなことを知ってほしい」と思いますが、それよりもお子さんの**心の発達を重視し、何度でも読んで**あげましょう。特に読み方を変えたりする必要ありません。

4才くらいからは視野が広がってきますので、お気に入りの本に加えてもう一冊読んだり、同じシリーズの別の本に誘導したりしてもいいと思います。

答えてくれたのは

絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ司書の安藤さん

質問募集中▶

このコーナーでは、知りたいテーマの絵本や、選び方・読み方についての質問を募集しています。P15のプレゼント応募と併せて、もしくは編集部メールアドレス(henshu@l-ma.jp)へお送りください。※メールの件名は「親子の絵本時間への質問」と明記。

ぴったりが
見つかる

親子の絵本時間



(*1)
ドロシー・マリノ 作・絵 こみやゆう 訳
徳間書店

『ぼくのママはうんてんし』(*2)も両親の仕事の様子を描いたものですが、ママが電車の運転士、パパが看護師というのが新鮮！子どもが将来、性別に囚われずきつかけになりますよ。



(*3)
酒井駒子 作・絵
偕成社

弟の面倒を見ているお母さん、アメリカの絵本でちょっと古いのですが、『おかあさんは、なににしている?』(*1)がテーマにぴったり。子どもたちが園や学校にいる間の、普段は知らないお母さんの姿を描いた一冊です。働いているお母さんだけでなく、家で

んや家事をしているお母さんも、「お母さんはこんなことをしてるんだよ」と、お話し

ず仕事を选べるようにという観点からおすすすめしたい一冊です。電車好きの子にもいいでしょう。

また、親子の愛情を描いた絵本として有名な『よるくま』(*3)は、働く母の物語でもあります。よるくまは寂しい思いもするけれど、お母さんが働いているのは、子どもにお魚を食べさせたり、自転車を買ってあげたりしたいから。そんな愛情が伝わる絵本です。

今月の
質問

働くママが登場する絵本はありますか？
保育園をぐずる息子に、ママの仕事の大切さを伝えたいです。
(1才男の子のママ)

お答え
します

アメリカの絵本でちょっと古いのですが、『おかあさんは、なににしている?』(*1)が



(*2)
おおともやすお さく
福音館書店

また、親子の愛情を描いた絵本として有名な『よるくま』(*3)は、働く母の物語でもあります。よるくまは寂しい思いもするけれど、お母さんが働いているのは、子どもにお魚を食べさせたり、自転車を買ってあげたりしたいから。そんな愛情が伝わる絵本です。